

二〇一四年五月二八日(有岡城跡ほか参加者一四名)

ほうき目に乱れなき庭いと涼し	ぼんこ
夏萩や鬼貫の句碑ここにあり	"
天守なく歌碑のみ残る夏野かな	"
酒蔵の昔を展示土間涼し	"
石庭のしるき幕目緑さす	はく子
つし涼しままごと道具飾られて	"
通り土間涼しつつかげ下駄並ぶ	"
天井の骨組あらはつし涼し	"
酒蔵をめぐる吟行街薄暑	わかば
一茎のつゆ草手向く女郎塚	"
鬼貫碑古りて夏草覆ひけり	"
遊び場は城址の礎石雀の子	よう子
官兵衛の幽閉地ここ蟻の道	"
十薬の小さき群落女郎塚	"
城址の礎石をつづる蟻の道	菜々
青萩のなぞへに鬼貫親子墓	"
ぬかづけば十薬匂ふ女郎塚	"
女郎塚よぎりて進む蟻の道	宏虎

つまづきててんやわんやの木下闇	"
朽ち折れし男柱や蔵寒し	せいじ
酒蔵の白壁に映ゆ若緑	"
土間の上にくろぶ大甕蔵涼し	つくし
太梁をうち仰ぎたる土間涼し	"
ナレーション落語語りや蔵涼し	小袖
いとはんの衣装を展示蔵涼し	"
いとはんの贅の着物や夏座敷	かかし
土間広し入りし一步に汗の引く	きづな

吟行句会みの選

二〇一四年五月二八日(有岡城跡ほか参加者一四名)